

クラス	QA302	担当教員	大饗 広之
テーマ	現代青年の心理 & 心理療法的アプローチ		
著書・論文 研究課題等	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「豹変する心」の現象学—精神科臨床の現場から—（勁草書房、2009） ◆ 「解離の病理—自己・世界・時代（共著）」（岩崎学術出版、2012） ◆ 「なぜ自殺は減らないのか—精神病理学からのアプローチ」（勁草書房、2013） ◆ 「幻想としての<私>—アスペルガー的人間の時代」（勁草書房、2017） 		
ゼミナール概要			
キーワード：青年期、解離、トラウマ、アスペルガー症候群、心理療法的アプローチ			
<p>目的、内容、方法、授業計画等：</p> <p>いま青年の心は今どうなっているのか、そして心理カウンセリングはそこにどうやってアプローチするのかということがこのゼミのテーマです。心理臨床ではどう個々の心に切り込んでいくのが中心になるので、たとえ不完全でも面接を通して対話を交わしていかないかぎり話になりません。そして自分の心に興味をもたないかぎり、他人の心についても知ることもできません（心理療法は他人と遭遇するなかで自分の心にも開かれるという相互的实践です）。ゼミではお互いのテーマを持ち寄りながら、ディスカッションを繰り返して心のメタレベルに入ることを学んでいきます。テーマはまったく自由でそれぞれが研究テーマを絞り込んでいきますが、正直2年間というのは一つの研究テーマに取りくむにはあまりに短い期間です。めざすべきことは、各々が取り組むべきテーマの入り口に立つという程度でしょうね。卒論をどう仕上げるかよりも（もちろん仕上げなければ卒業できませんが）、自分のテーマにどれほど向き合ったのかということの評価したいと思います。大事なことは、たとえ公認心理師をめざすのでなくても、自分に興味をもって長い時間をかけて自分にとってのテーマを煮詰めていくことです。</p> <p>ゼミの運営方法はみなさんのやる気にかかっていますが、模擬カウンセリングなども含めてディスカッションが中心となりますから、少なくとも発表や相談、あるいは自己開示にみずから取り組んでいこうとしない人、他人を巻き込もうとする人、傷ついたら（相談もせずに）休みがちになってしまいそうな人などは遠慮いただく方がいいと思います。とくに心理療法家を志す人であれば、①過去のトラウマにもかかわっていくこと、②心を扱う上での倫理（秘密保持）をわきまえていること、③集団状況で少しは自己開示を試みること（少し恥をかいてもいいと思うこと）が最低条件です。ゼミという閉鎖的（中間的）な集団状況を、自分を知るための場として利用する気でのぞんで欲しいところです（そういう機会は今後の人生でもそうないでしょう）。心理療法はたんに症状をとることではなく、「三つ子の魂百まで」という固定観念をうちやぶって、なんらかの自己変革をめざす営みですから、そのためにも多少の心理的抵抗も覚悟しなければならないということです。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>内面について考える（内省する）姿勢のない人にはこのゼミはおもしろくないどころか、苦痛になること請け合いです。心理学は勉強したけど、こころについてはサッパリわからなかった、自分はぜんぜん変わらなかったという学生をけっこうみかけますが、まあそれでは時間と金をドブに捨てるようなもの、自分のこころを知るには「鏡としての他者」が必要であって、そのためには多少の抵抗もがまんしなければならないと思います。上にも書いたとおり、このゼミは討論中心で、学生の自主性に委ねられるところが大きいので、少なくともいろんなことに疑問を抱き、積極的に議論に参加していく姿勢がのぞまれます。自分の抱いた疑問に執念深くコミットしていけばけっこうおもしろくなるものです。単位取得については、とくに3年時には出席を厳密に評価します。ま、温情は期待できないと思ってください。</p>			